閉塞性動脈硬化症という病気は・・・

「閉塞性動脈硬化症」とは、足の動脈が動脈硬化のため狭くなったりつまってしまい、足に充分血液が流れず血流障害を起こした状態です。

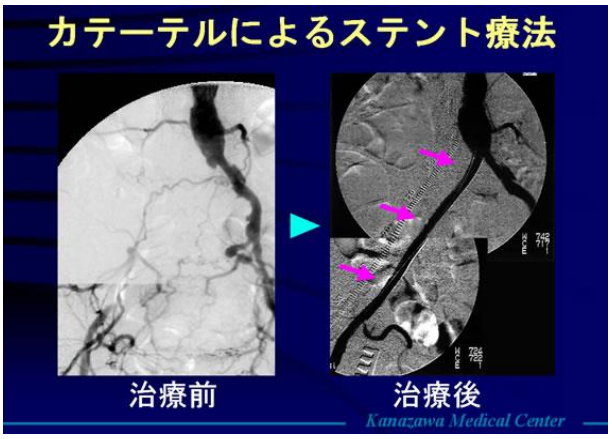
足は筋肉量が多く運動も激しいので血液が不足するとその減少度により症状が変わります。最初は寒い日に足が冷たく感じたり、寝床に入っても暖まるのに時間がかかるように感じます。もう少し進むと、歩行時に足・大腿や腰の筋肉が固く、痛くなってきます。さらに進むと足の色が赤紫色あるいは白っぽく血の気が無くなり、ちょっと歩いても痛くなるようになり、寒い日などはじっとしていても痛みが去らない状態になります。時には、足趾先が黒くなったり潰瘍を作ったりします。この状態を放置していると突然、残っていた太い動脈が詰まったりして足が大きく虚血になり、切断が必要となることもあります。

血流を改善するには　1）おくすり、２）カテーテルによる拡張、３）バイパス手術　があります。まずおくすりを飲み、それでも症状があれば次の治療を考えます。

＜カテーテルによる拡張＞

最近急速に発展した方法で、局所麻酔で行えるのが大きな特徴です。そのため患者さんに対する侵襲は極めて小さくなりました。

風船のついたカテーテルという細い管を動脈の狭くなった所へ誘導し、そこでバルーンを拡げ、狭い部分を拡張する方法です。この方法でうまく拡がり、それが長く続く例もあるのですが、また狭くなる場合もかなり見られます。



ステント治療前後の血管造影
右下腹の動脈が完全につまっている状態に対し、治療を行い、右図の矢印に示したように、血流が再開しました。

これに対し、風船の外側に金属の網状の筒（ステント）を持っていき、これを一緒に拡げ、その金属の網状の筒をその部位に留置してくる方法が行われています。ステント療法といいます。これにより長期成績は改善しています。特に下腹の太い動脈には非常に有効ですが、足の付け根より下の細い血管では慎重に行う必要があります。

独立行政法人 国立病院機構
National Hospital Organization

金沢医療センター
Kanazawa Medical Center
〒920-8650 金沢市下石引町１番１号
Tel (076) 262-4161 FAX (076) 222-2758

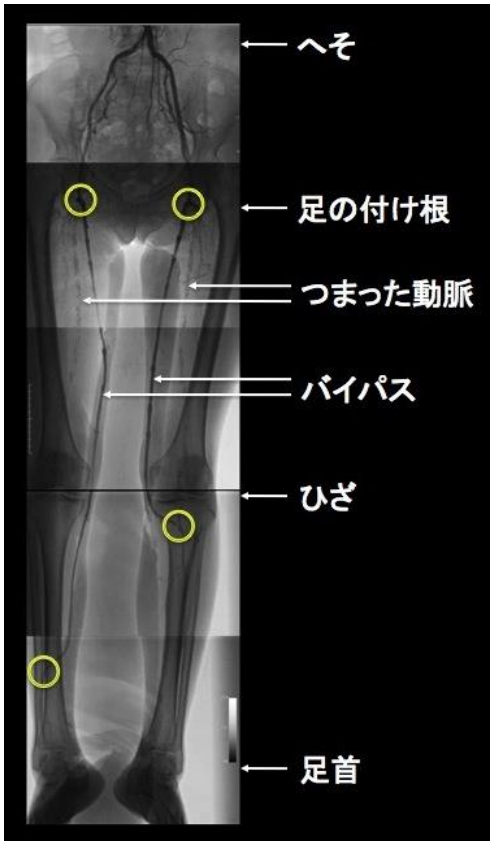
＜バイパス手術＞

つまってしまった動脈の中枢から末梢までを、人工血管やご自分の静脈を用いバイパスを作り、より末梢への血流を再建する方法です。下の左の写真のように足趾が壊疽をおこしている場合には、右の写真のように足を救うためにほとんどの方でバイパス術が必要です。

術前写真

術後写真

○ 膝よりも下の動脈へのバイパス手術○



動脈病変の範囲によっては、左の写真に示すように膝よりも下の動脈までバイパスを架ける場合があります。この時バイパス用の血管として使うのは人工血管ではなくて患者さんご自身の静脈です。この静脈は「大伏在静脈」といい、心臓の冠動脈バイパス術にも使われています。

左右それぞれ、つまった動脈はそのままにして、足の付け根の動脈と膝より下の動脈をご自分の静脈を使ってつなぎます(○印の 4 箇所)。

ちょっと手間が掛かりますがその効果は絶大です。

足の先まで十分に血液が供給されれば、本来なら切断せざるを得なかった部分(特に踵は歩くために大事)を残せる可能性が出てくるのです。

ま　と　め

カテーテルで治療するかバイパス手術が必要かは、患者様の状態で異なります。
我々は双方の治療の欠点と長所を勘案し、最高の治療を行えるよう努めております。